

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970200388		
法人名	有限会社 サン企画コーポレーション		
事業所名	グループホーム ゆかりの里苑		
所在地	奈良県大和高田市松塚850-3		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36 大和ビル3階
訪問調査日	平成24年6月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

くもん学習療法を導入し、大脳の前頭前野を活性化させることにより、その機能を回復させ、認知症を予防改善することに、職員がサポーターとしてがんばっています。園芸療法のグリーンサポートさんの力も借り、個々のADLに合わせた植物を育て、時には育てたものを調理に使用しおいしくいただいた。これからの育てる楽しみを続けていきたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

駅からも近く、落ち着いたホームである。公文式学習療法を採用し、認知症の予防改善に努めている。また園芸療法で野菜を一人一つ育てることで収穫の喜びを味わうなど、メンタル面においても認知症の改善に取り組んでいる。またボランティアの協力もあり、外出の時などサポートしていただいている。一人ひとりを大切に、利用者職員間の関係も良く、職員間の情報の共有も保たれ、家庭的な雰囲気の漂うグループホームである。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会また自分自身の今年一年の抱負を提出してもらったときにも理念の意識度を確認している。	ホームの理念は、「人としての尊厳を大切に、家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を活かし、日常生活の支援を行います」と重要事項説明書に書き加え、ミーティング等でも確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元で根を生やす施設として積極的に地元の行事には参加している。	地域に溶け込み、親しんでもらえるように、創意工夫し、交流を大切にしている。地元の祭りや子供会行事にも参加し、また介護保険の相談にも快く応じている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険の相談や、認知予防のための公文学習療法も地元で行われるときは、進んで協力させていただくようになっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のときは、地元の方に出来ることや、またお世話になることなど相乗効果の発揮できるような内容や状況についてお話をさせていただいてる。	2ヶ月に一回開催している。地元自治会の会長・副会長、民生委員、ボランティア会長、地域包括支援センター職員、家族代表の参加をえて、施設内で開催している。内容は近況報告、行事報告、外部評価の結果報告。ボランティアのこと、防災訓練の協力、介護保険等について意見を交換している。	運営推進会議には、家族代表者は毎回同じ方なので、時には異なった家族の参加を要請し幅広い意見や要望を汲み上げる取り組みが望まれる。また会議録を作成し、家族に閲覧してもらい情報を共有できる仕組みづくりを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政や社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会の皆様にご協力いただいている。	市の担当者とは日ごろから話をする機会も多く、密接に連携している。また地域の高齢者サービスについての相談、事業所の現状を伝え、運営の相談など、良好な協力関係を保っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティングで取り上げた研修にも参加し、職員全体で取り組んでいる。	今年3月に自動ドアに改造したが、ホームのすぐ前が比較的交通量が多い道路であるため、安全を考慮して自動ドアの開閉には暗証番号の入力が必要である。身体拘束に関しては、研修に参加し、ミーティングでも話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で取り組んでいる。言葉使いにも気を付けている。もちろん勉強会や研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で講師をお招きし研修会を行っている。今年も研修を計画をしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にご家族やご本人にお目にかかり色々お話を聞かせていただいている。契約時は各項目を読み上げ説明しご理解をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どのような事でもお聞かせいただくよう必ずお声掛けし介護に活かしている。	面会に来られる家族が多く、面会時には膝を突き合わせて、意見などをゆっくり聞くようにしている。そのなかで聞いた意見・要望は、どうすれば良いかを全職員で話し合い、日ごろのケアのなかで実践し、結果を家族に報告している。	現在は家族会はないが、家族会を立ち上げ家族の意見や要望をストレートに汲み上げ、サービスの質の向上に活かす仕組みづくりを期待する。また外部評価結果を窓口など見やすい場所に置き、閲覧してもらい事業所の評価を周知することも一つの方法かと思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや勉強会に報告やまた職員の意見も聞け時間を設けている。	月1回ミーティングを開いて、各自意見を出してもらっている。貴重な意見もあり、共有・実行している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の持っている長所を生かせるような配置やまた良いところを評価するようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修には進んで参加している。介護労働センターから講師をお招きし研修に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームや県内の日本グループホーム協会に加入されている事業所とも情報交換しサービス向上に繁栄させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様とお目にかかり現状をしっかりと聞かせていただきニーズに対応出来るようそして、ご本人との信頼関係を築けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子やご家族様の思いや要望を聞かせていただきどの様なことでもお話頂けるよう心がけている。ご自宅にお伺いすることもある。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずご本人やご家族様にお目にかかりお話を聞かせていただき、言葉や態度、表情などを細かく観察し記録に残しそれをベースにプランを作成している。施設以外のサービスも取り込んでいます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持ちつ持たれつ、和気藹々と、お世話になったり、お世話をしたり等、日常会話の中にも良いご縁を頂いてと感謝の気持ちを言葉にしています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、ご本人の様子をお話させていただき、時にはご家族様のお力をお借りして支援させていただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会にお見えいただくときには、失礼のないよう言葉や態度には、特に気を付けまたお見えいただくようお声かけしている。	前住居地からの訪問者を大切に、再訪していただいている。また以前かかっていたマッサージ師に継続して施術しに来てもらったりして関係が途絶えないように配慮している。ホームでの生活が日常になるよう目指している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	雰囲気作りや、空気を読みながら笑顔で過ごしていただけるよう配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も支援や相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一でのコミュニケーションをとりご本人さんの意向を聞かせて頂いている。職員皆で検討している。	職員は利用者の個々の思いや希望を把握し、検討している。フェイスシートに記入して、情報を共有して介護計画につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、また認定情報等も取り寄せ把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に変化のあったとき(ADL、心の変化)日報には詳しく記載し赤ペンにてしるしを入れるようにしている。申し送りノートにも記載し職員全員に解るようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回必ず検討している。急を要するときはその都度検討しプランに反映している。	月に1回必要に応じてその都度検討している。新利用者には3～4日のタイムテーブルをとり、表情や反応を細かく記録し、全員で共有している。日常も全職員が関わり日報に記入し、介護計画につなげている。家族の希望は利用開始時に聞いているが、利用者に変化があればその都度相談している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変化のあったとき(ADL、心の変化)日報には詳しく記載し赤ペンにてしるしを入れるようにしている。申し送りノートにも記載し職員全員に解るようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の状況にあわせお買物に同行していたり、散歩やお地藏様にお参りに出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の松塚町やボランティアの方々の協力で週一回ぐらいの割合でレクを提供して頂き、楽しいひと時を過ごしていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの受診はご家族様と一緒にいかれその後の対応に関してはしっかりと家族様よりお聞きしたとりにしている。	かかりつけ医への通院は、原則家族の付き添いで行っている。受診内容を家族から報告を受け、医師の指示にしたがって対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師はいなく往診の、日の出診療所の医師や看護師や訪問看護師24時間対応していただける。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供し、退院時医師、看護士、作業、理学、療法士、当方のケアマネ、職員、施設長等まじえて指示を仰ぎ対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族とも話し合いドクターや看護士の指示を仰ぎながら職員とともに取り組んでいる。	終末期のケアについては、重要事項説明書に明記していないが、本人・家族の希望があり、医師・看護師・職員が連携してホームで看取りをしたことがある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADL設置、消火、非難訓練を年二回行い、地元での訓練にも参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員はもちろん地域の役員の方々に緊急時の連絡先も聞かせていただき、協力体制も出来ていると報告いただいています。	安全のことを考えオール電化にしている。年に2回地域の方、消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。運営推進会議でも報告し、協力をお願いしている。防災設備を設置し、全室防災カーテンを使用している。	現在は利用者の参加はないが、万が一の緊急時に備えて慌てず確実な避難誘導ができるように、職員と利用者が一緒に、訓練をすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような症状の方であろうと人間として人としてその人らしく生きていただくことが私たちの願いであり支援だと思います。言葉や態度にもプライドを傷つけることなくまたプライバシーを損ねることのないよう配慮しています。	自己決定を大切に、職員は言葉遣いに気をつけて、その人らしい暮らしを支援し、プライバシーを尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人さんが、意思決定できるような声掛けを心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けしながらご本人の希望に添うよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことの出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備をお手伝いいただき、後片づけもお手伝いしている。	カウンターキッチンで食事作りをすることにより、リビングにいる利用者は五感で食事を楽しむことができるよう工夫している。地域の方からいただいた野菜でメニューを考えたり、梅・しそ・いちご等季節の物を利用した料理を楽しんでいただいている。利用者には下ごしらえや後片付けの手伝いをさせていただいている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報には、水分摂取や食事が一目でわかるような様式になっており、お一人ずつの状態に合わせて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お口の状態にあったケアをしている。ご自身で出来ない方はお手伝いしている。誤嚥性肺炎の予防の為徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った自立支援で極力パットやおむつを減らすことと、使用しないような取り組みをしている。排泄リズムをハークトイレの前誘導を徹底している。	一人ひとりの排泄の様子を観察し、把握に努め、自立にむけて工夫を重ねている。自尊心を傷つけないように配慮している。勉強会をしてその人にあった支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製のヨーグルトを提供させていただき、繊維のある食材を使用するよう心がけている。水分補給の大切さもお話させていただき、こまめに提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤や薬草等を使い入浴を楽しんでいた。当施設では一階、二階あわせて週四回の入浴がありそれ以外も対応している。	週2回、時に応じてシャワー浴・全身浴をしている。菖蒲湯や薬草風呂、冬場はみかんの皮を入れたりして入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼ねされる方もおられる。就寝介助は安心していただけるような声掛けを心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬もれや飲みこぼしにも注意を怠ることのないよう心がけし副作用や用法、用量も理解している。職員一人でごなすのではなく何人かが毎回かかわっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の準備、洗濯済みの衣類やタオルをたたむ等、お役に立っている喜び、好きなことを楽しむ、(編み物、折り紙、ぬりえ)気分転換のできるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴を兼ね近所の散歩、お宮さん、お地蔵さん参り、をしている。また週一回診療デイに参加する為、車でお出かけている。桜、バラ、菖蒲等の公園にも出かけている。ボランティアさんの協力をいただいている。	天気の良い日は近くの地藏さんやお宮さんに出かけている。お花見などに出かける時に、利用者の馴染みの場所を通るなどして、個々の思い出を大切にしている。外出できない時はホーム内を楽しみながら歩く工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はお持ちではないがお買物にご一緒していただく時はお金をお渡ししご自身でお支払いしていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	。電話をかけたい方はかけていただき、はがきに年賀状や暑中見舞いも書いていただき郵送している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただける花や、置物、壁の張り紙にも配慮している。	清潔を心がけ、リビングや廊下には利用者の作品や、歩く励みとなるシール貼りの絵などを貼り、居心地良く、くつろげる空間づくりに努めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	のんびりソファに寄りかかったり、テーブルで折り紙をしたりそれぞれの想いで過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各お部屋は、家族様やご本人の希望で配置さされている。荷物の管理や整理等職員がまめに気配りしている。	ホームの備品以外は自宅より持ち込まれ、本人や家族の好みに配置されている。仏壇を持ち込まれたり、お気に入りの写真や置物を飾り、お気に入りの空間を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にあったテーブルや椅子の高さ、その人にあった歩行器、呼吸法を取り入れたリハビリ、お口の体操等自立に向けた支援を心がけている。		